

基準 A 地域貢献

IV. 短期大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献

A-1 短期大学と地域との連携

A-1-① 自治体との連携事業

A-1-② 地域の人材育成事業への協力

(1) A-1の自己判定

基準項目A-1を満たしている。

(2) A-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 自治体との提携事業

八戸学院大学短期大学部（以下、本学）は開学以来、地域社会との連携を重視した学校運営を行ってきた。すなわち、各学科の教育理念・教育目的に基づき、それぞれの特性を活かして、地域社会の発展に寄与することができる人材の育成を目指し、地域に密着した教育活動を行っている。

平成22(2010)年度以降、八戸学院大学と近隣自治体との連携・協力協定の締結が推進され、平成26(2014)年には、八戸学院大学と本学の有する多様な専門性と人的・物的資源を地域において活用するために、八戸学院地域連携研究センター（以下、地域連携研究センター）が設立された。

本学と近隣自治体との連携協定について、表A-1-1に示す。

表A-1-1 本学と自治体との協定締結一覧（令和2(2020)年5月1日現在）

市町村	締結年月日	協定書名称
新郷村	平成26(2014)年3月27日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
階上町	平成27(2015)年3月26日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
五戸町	平成27(2015)年4月16日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
八戸市	平成27(2015)年12月24日	八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定書
南部町	平成28(2016)年3月23日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
三沢市	平成30(2018)年3月22日	地方創生に係る包括連携協力に関する協定書 (大学・短期大学部)
三戸町	令和元(2019)年8月20日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学部）

これらの自治体から本学もしくは八戸学院大学に協力の要請があった場合は、地域連携研究センターがそれを受け、それぞれの事業に関連する教員と学生に対して応援を依頼する。本学の実績としては、これまで、新郷村との連携協定に基づいて「新郷村チャレンジデー」に幼児保育学科の教員と2年生が参加して保育園児と交流したり（平成26(2014)～28(2016)年度）、八戸市との健康福祉連携協力協定に基づいて平成27(2015)～29(2017)年度に行われた「八戸市介護人材発掘育成事業（ケアワークサポート研修）」に本学教員が協

力した。さらに、八戸学院大学と八戸市とのスポーツ連携協力協定に基づいて行われている「ジュニアサッカー教室」と本学教員が主宰する現代芸術教室「アートイズ」とのコラボレーション企画が実施された（平成29(2017)年）ことがある。

令和元(2019)年度の活動内容は以下のとおりである。

1. 八戸市

八戸市（まちづくり文化スポーツ部新美術館建設推進室）の委託を受け、幼児保育学科の美術教員が講師として「八戸市アートの学び事業」に参画し、現代芸術教室「アートイズ」の講座を計5回開催した。内容はオリジナル凧づくり、ゆるキャラのデザイン、スプレーアート、アートとサッカーのコラボレーション、江戸のペット日本画体験である。また、同事業主催による「はちのへアートビジネスシンポジウム」にも同教員がパネリストとして参加した。

八戸市（長根屋内スケート場・国体室）の委託を受けた「長根屋内スケート場産学官スポーツ振興連携事業」には八戸学院大学と本学がともに参画し、本学では介護福祉学科教員が「レクリエーションゲーム体験講座」を2回開催した。

スポーツ関係では、小学校の部活動の指導を保護者が行うようになったことにもなって、大学によるサポートの需要が高まっている。これを受けて、八戸市教育委員会を通して、八戸学院大学とともに八戸市立新井田小学校の部活動支援モデル事業を開始した。令和元(2019)年10月より、卓球を専門とする幼児保育学科の体育教員が週1回のペースで通い、技術向上だけでなく、子どもが身体を動かす楽しさを感じ、継続してスポーツに携わる力を得ることを目的に指導を行っている（コロナウイルスの感染拡大にともない、中断）。

2. 階上町

階上町連携事業として、「第21回はしかみ臥牛山まつり」と「第41回階上町民文化祭」に本学の学生ボランティアサークルである「あすなる会」が参加し、ステージでアンパンマンのダンスを演じた。また、「第33回はしかみいちご煮祭り」には「1Park（わんぱーく）」を開催し、本学ゼミナールの活動で来場した子どもたちに自由で多様な遊びの場を提供した。

A-1-② 地域の人材育成事業への協力

1. 教員免許状更新講習

平成21(2009)年度から幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員を対象として、夏と冬の年2回、教員免許状更新講習を八戸学院大学と合同で開催している。平成27(2015)年度からは「子ども・子育て支援新制度」により、保育士の受講が始まり、受講者数が増加するとともに、保育士・幼稚園教諭が受講者の半分以上を占めるようになった。これを受け、幼児教育に関する選択講習を増やすとともに、令和元(2019)年度は選択必修科目の担当者に新たに幼児教育を専門とする教員を加えて対応した。令和元(2019)年度の必修講習の参加者数は夏期287人、冬期164人に上り、地域社会から一定の評価を得ている。

【資料A-1-1】教員免許状更新講習資料

2. 青森県子育て支援員研修

青森県の要請を受け、平成28(2016)年度より子育て支援員研修を実施している。講師は本学教員（専任および非常勤講師）と八戸学院大学教員により構成されており、例年80人程度の参加者を得ている。

【資料A-1-2】子育て支援員研修日程表

3. 研修会への講師派遣

幼児保育学科では地域の保育者、介護福祉学科では介護従事者を対象にした研修会に教員が講師として協力している。最近の特徴として、「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（平成29年4月1日雇児保発0401第1号厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知）を受けて保育者を対象とする研修への協力要請があり、幼児教育を専門とする教員を派遣している。令和元(2019)年度の実績として、八戸市保育連合会キャリアアップ研修（幼児教育分野・乳児保育分野）、青森県保育連合会キャリアアップ研修（幼児教育分野）、全国認定こども園協会 青森県支部保育士等キャリアアップ研修会、久慈地区保育研究会、三戸郡保育士会、五所川原市保育連合会、三沢市幼稚園教育研究会への講師派遣があった。また、保育者対象ではないが、子育て支援に関わるものとしては、八戸市ファミリーサポートセンターステップアップ研修会、階上町地域子育て支援センターにも講師を派遣している。

介護従事者を対象としたものでは、介護支援専門員研修会（実務従事者、主任ケアマネジャー等）、八戸市訪問型サービスA訪問支援員養成研修での講師の実績があった。

4. 保育の学校・介護の学校

地域の保育者に対するリカレント教育の場を設け、卒業後も学び続ける保育者を支援するために、平成28(2016)年度より本学主催による「保育の学校」を企画運営しており、令和元(2019)年度は8月24日に開催した。これは八戸学院大学人間健康学科が開催していた「介護の学校」をモデルとしており、基調講演のほかに各自が希望する分科会に参加する方式で終日実施している。

八戸学院大学人間健康学科による「介護の学校」は平成28(2016)年をもって終了したが、令和元(2019)年度は本学に新設された介護福祉学科が企画し、「保育の学校」と同日に開催した。

「保育の学校」、「介護の学校」ともに本学と八戸学院大学の教員に加え、外部からも講師を招いてバラエティーに富んだ内容の講座を開いており、参加者の評価は高い。今後は日程や広報等周知方法の改善を図る必要がある。

【資料A-1-3】「令和元年度保育の学校・介護の学校」リーフレット

(3) A-1の改善・向上方策（将来計画）

今後も八戸学院大学と協力し、地元自治体との連携を深め、本学の専門性・教育力を生かした地域貢献を行う。本学独自の活動である「保育の学校」、「介護の学校」については、内容のさらなる充実、運営の合理化、多数の参加者の獲得に向けて、双方の担当者の連携協力を深める予定である。

A-2 地域に密着した教育研究

A-2-① 青森県南地域をフィールドとした教育活動

A-2-② 本学の特色を活かした教育研究活動

(1) A-2の自己判定

基準項目A-2を満たしている。

(2) A-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-2-① 青森県南地域をフィールドとした教育活動

本学では、学生のほとんど（過去5年間の平均で約98%）が青森県南地域および岩手県北地域から入学しており、地域をフィールドとした教育活動を活発に行っている。地域で実習を行うだけでなく、ゼミナール、行事、ボランティア、サークル等で地域をフィールドとした教育活動を行っている。

1. ゼミナール

幼児保育学科ではゼミナールが卒業必修科目となっている。各ゼミナールは教員の専門性を活かした活動を展開しており、ゼミナール活動がサークルに発展していることもある。それらを主体として、地域のさまざまな場において、ウインドアンサンブル、ハンドベル、プレーパーク、運動遊びの指導、障害児との交流などの多彩な活動が行われている。令和元(2019)年度は新たに「八戸子育てマップ」、おやつ教室「スマイルビスケット」の活動が加わった。なお、「八戸子育てマップ」の活動は八戸市学生まちづくり助成金制度に採択された。

2. 子どもフェスタ

幼児保育学科2年生は卒業前の2月に開催される八戸市主催の「はちのへこどもフェスタ」において、2年間の学びの集大成である「オペレッタ」発表を行う（会場：八戸市公会堂文化ホール）。これは幼児保育学科の卒業必修科目「総合表現」に位置づけられており、4つのグループがそれぞれ工夫を凝らした舞台を披露している。令和元(2019)年度の演目は「みんなだいじな仲間」、「王様の耳はロバの耳」、「青い鳥さがしに」、「サウンドオブミュージック」であった。毎年学生の保護者や卒業生だけでなく、地域の大勢の子どもと保護者が来場し、アンケートには好意的なメッセージが寄せられている。

【資料A-2-1】「オペレッタ」パンフレットおよびアンケート結果

3. ボランティア

本学は地域に根ざした高等教育機関として、地域の多くの施設からボランティアの依頼を受けており、学生に対してはキャンパス外の貴重な学びの経験として、ボランティア活動を推奨している。令和元(2019)年度は、募集があった87件に対して50件240人の活動実績があった。また、募集があったもの以外で学生が個人的に実習施設から直接依頼を受けたり、自ら広告を見て申し込んだボランティア活動の参加件数は27件52人に上った。活動内容はさまざまだが、保育所や幼稚園、小学校、福祉施設の行事の運営補助やステージ出演が多い。

【資料A-2-2】学生ボランティア活動報告集計

4. はちがくフェス（学生祭）

本学では学生祭を教育の一環と位置づけ、日頃の学習の成果を発表するとともに、来場者と交流して学びを深める場としてきた。令和元(2019)年度、幼児保育学科では各ゼミナールが主体となって子どもが楽しめるさまざまな遊びや造形活動を企画運営する「子どもの部屋」、「ピアノコンサート」、「ウインドアンサンブルコンサート」、「ハンドベル演奏会」、「子どもの体力測定」等を実施した。介護福祉学科では学科企画として「介護体験コーナー」を運営した。

【資料 A-2-3】「はちがくフェス」パンフレット

5. 八戸七夕祭り

地域に根ざした大学として、地域行事である八戸七夕祭りの前夜祭で行われる「八戸小唄流し踊り」に全学的に参加している。令和元年(2019)年度は両学科の1年生に加えて八戸学院大学健康医療学部看護学科3年生が加わり、全員が浴衣姿で踊りながら中心街を練り歩いた。また、幼児保育学科では毎年1年生の美術の授業で七夕祭りの吹き流しを制作し、中心街の飾り付けに寄与している。学生らしい創意工夫を施した吹き流しは平成28(2016)年に最優秀賞を獲得し、その後も毎年優秀賞を受賞している。

【資料 A-2-4】「流し踊り」資料

A-2-② 本学の特色を活かした教育研究活動

研修会等とは別に、教員の持つ専門性を生かし、一般市民を対象として継続的に行われている活動がある。これらは地域貢献活動であるとともに、教員の実践的研究の場であり、参加する学生にとっての貴重な学びの場ともなっている。

1. 現代芸術教室「アートイズ」

幼児保育学科の美術教員が現代芸術教室「アートイズ」を開催している。八戸市との連携事業に参画するほか、さまざまな機会にワークショップを開催し、子どもが造形活動を通じて創造性を広げる場を設けている。子ども・保護者からの評価は高く、リピーターの参加者が多い。令和元(2019)年度は前年度に引き続き、青森明の星短期大学の教員との合同ワークショップ「第2回おめめとおてて展」も開催した。

【資料A-2-5】「アートイズ」リーフレット

2. ウォーキングクラス

平成26(2014)年度より地域の高齢者を対象として、健康促進のためのウォーキングクラスを本学体育館で実施している。平成30(2018)年度からは参加者の増大にともない教員2人が学生スタッフ（ワークスタディ）とともに運営する体制とし、令和元(2019)年度は参加者からの要望を受けて活動の頻度を週1回から週2回へと拡充した。

【資料A-2-6】「ウォーキングクラス」リーフレット

3. 1Park（わんぱーく）

従来の公園等とは異なる、子どもが自由に遊びを展開することができる場「プレーパーク」を作る活動が全国的に拡大している。本学では幼児保育学科の幼児教育を専門とする

教員がこの活動を実践しており、地域のさまざまなイベント等に参加し、ゼミナールの学生とともに冒険遊び場「1Park」を提供している。保護者からは、子どもが真剣に夢中になって遊ぶ姿に新鮮な感動を覚えたといった高い評価が毎回寄せられている。

【資料A-2-7】「1Park」リーフレット

4. ハンドベル

前述のとおり、幼児保育学科の音楽の教員がゼミナールとサークルでハンドベルの活動を行っており、さまざまな機会にミニコンサートを開いて成果を披露するとともに、子どもにハンドベル体験を提供している。また、卒業生有志から成るハンドベルのグループ「HGJCリンガーズ」を長年運営・指導しており、令和元(2019)年度は八戸市公会堂でコンサートを開催した。

【資料A-2-8】ハンドベルコンサートリーフレット

(3) A-2の改善・向上方策（将来計画）

今後とも、青森県南地域をフィールドとした教育活動を積極的に展開し、学生の資質の向上に努めるとともに、卒業生を含む地域の人材育成の支援を行う。ボランティアについては学生の意識も多様であるため、有意義な活動を行えるよう、学内での指導に留意する。

【基準Aの自己評価】

本学は現在7つの自治体と連携協定を締結し、さまざまな地域貢献活動を行っている。

本学の地域貢献の多くは、地域の教員や保育者、介護従事者を対象とした教育活動である。外部からの要請を受けて公開講座を開催するほか、教員が出張講義や研修会で講師を務める機会が多い。また、本学教員が自ら立ち上げ、企画運営している公開講座もある。そのほか、地域住民を対象として継続的に行われている活動があり、地域から高い評価を得ている。

学生への教育としては、実習だけでなく、ゼミナール等の授業でも地域をフィールドとした活動がさまざまに展開されており、行事やボランティアでも地域住民と交流している。

このように、地域をフィールドとした教育活動は、将来の地域発展に資する人材育成につながる活動であり、本学の魅力を地域に発信する活動となっている。